「笹川名鳩賞」の流れを組む中距離エースピジョンの最高賞

令和8年度 会長賞

全国1位

25LK00887 “ハリー・ティアラ”
BC ♀ 小川安都志鳩舎作翔

26年千葉東連盟Rg　4,521羽中総合17位【入賞率 0.00376】
地区N 3,685羽中総合９位【入賞率 0.00244】

合計入賞率 0.00620

生まれ

- 生年月日 …… 25年3月24日
- 順番 …… 1番仔

鳩体

- 大きさ……中
- 体型……普通
- 主翼の形状…キレあり
- 腰の厚み…厚い
- 筋肉……柔らかい
- ベスト時の重さ…軽い
- 目……銀
- 重心…前のめり
- 性格……おとなしい

作出の意図

- 距離適性 …400K～600K
- 展開 ……分速1200～1400m台
- タイプ ……万能型



*26年春千葉東連盟中距離AP賞1位
┌“ヘッドマーク・ハリー” 16LK01140 BCP 小川安都志作翔
17年春千翔会千葉日報社杯600K4,055羽中総合9位
同腹／“ミスパック”(17年桜花賞総合3位)
→“ドリームハリー” NL15-1850035 BCW ホーイマン
“ハリー”×(“クライネ・ディルク”の孫×上記“ハリー”
全兄弟の直仔／16年KBDB会長賞全国優勝
└15LK11324 BC 北野雅雄作
→08LK01366 B 北野作翔
09年春Rg500K3,092羽中総合優勝 農林水産
“カニバール”の孫×05年KBDB中距離ナショナルA
└13LK01807 BC 小林正明作 北野使翔
15年春Rg500K4,999羽中総合優勝、
アジア鳩協聯盟会長賞南関東地区優勝
14年秋秋華賞300K6,496羽中総合8位、
14年春Rg500K5,786羽中総合5位、会長賞
“カニバール”の4重近親
└19LK02148 B 小川安都志作 平野幸夫使翔
19年秋スプリント400K3,590羽中総合7位
直仔／秋スピード選手権300K総合6位
→“カイチョウブリクセン”16LK01138 B 小川作翔
17年会長賞、Rg 5,770羽中総合10位、地区N2,551羽
→“No.1 ロード” B14-6264197 B ロードホフ
B05-6381691(アントワープ連盟1位&2位の“トム
全兄弟／“ミスド・エース”(14年ラステレーヌN最高分速、
└B09-2100896 デノー&ヘルボッツ作
“ブリクセム”の直仔×“ナショナルI”の直系
全兄／“イヴァン”(09年KBDB中距離ナショナル
└B16-6236145 B ロードホフ作翔
ジアン5,470羽中23位、シャトローN4,389羽中45位
→B08-6321035 ロードホフ作
“036”×上記B05-6381691“トム”の全妹)の全妹
└B11-6025221 “ヴィットバイク”の曾孫





令和8年度　会長賞全国１位　小川安都志鳩舎(千葉若潮)

の作翔者・東連盟・千葉若潮連合会）

“AP男”が満を持して中距離APの頂点に――！

13年に設立された「全国1位」は、中距離レースの最高賞として君臨する。令和8年度は6月10日（＊全国1位の有資格日）スのメッカ――千葉東連盟から誕生！　日本優秀鳩舎賞常連の強豪・小川安都志鳩舎（千葉若潮）作翔のを1羽、スーパーエクセレントピジョンを2羽生み出した“AP男”でもあり、今回は満を持して中距離部門の日本一をあまたに輩出してきた“スピード血統の代名詞”ファンダイクの“カニバール”の血が色濃く流れ、さらにその父でありまた「鳩レース＝血統」――ブラッドスポーツの本質を鮮やかに体現する“然るべき”1羽であった。

2年連続千葉東連盟！

78年、笹川良一氏の協会会長就任を機に設立された「笹川名鳩賞」。対象レースはRgと地区N――協会初の中距離AP賞として誕生したこのタイトルは、現在「会長賞」の名称で継承されている。とはいえ連盟1位のみが顕彰対象であるため、同類の「総理大臣賞」や「日本AP賞」に比べて格落ちは否めず。しかし13年に「全国1位」が新設。日本一が追加されたことで、かつての「笹川」ブランドのように、その権威と注目度は前述のAP2賞と変わりない。

令和8年度は延べ約10万羽がこの賞レースに参加し、63連盟中57連盟から期日内（6月10日）に申請された。全国1位は、2年連続で千葉東連盟から誕生。選出されたのは「スーパーエクセレントピジョン」の認定鳩2羽（19年・22年）、うち1羽が日本AP賞とのダブルという〝神鳩〟を生み出した実績を持つ〝AP男〟――**小川安都志鳩舎（千葉若潮）**作翔の**「25LK00887」**である。

APの輪廻を物語る血統構成

この1羽は、秋レースに参加しなかったことで、シルバーエクセレントピジョンの認定には至らなかったものの、300Kを含めた連盟の中距離AP賞で1位を射止めており、歴代の会長賞全国1位と同様、その道の〝スペシャリスト〟だ。

そして血統も然り。ブラッドスポーツの醍醐味――「APの輪廻」を物語っている。父方は**〝ハリー（09年WHZB長距離ナショナルAP賞1位）〟**、そしてその大元にして、ほぼ全ての会長賞全国1位に流れる**〝カニバール（96年KBDB中距離ナショナルAP賞1位）〟**の血が、コープマンの**〝クライネ・ディルク（若鳩ワールドCH5位）〟**を交えつつ、確認できるだけでも8重近親という濃密さだ。しかも国内においてファンダイク系最高CHと言われる**「13LK01807（翔歴は血統参照）」**の直系でもある。

一方、母方にはロードホフの**〝036（アントワープ連盟1位2回、4位）〟**、受賞歴はないものの、実績はAPであるガビー・ファンデナベールの**〝ブリクセム（ボワチェーP優勝、シャトロー2位他）〟**や**〝ナショナルー（ブルージュN優勝を含み5回優勝）〟**がダイレクトに脈を打ち、これらは**〝トム〟**や**〝イヴァン〟**、**〝ミスト・エース〟**といった世界的APを世に送り出しており、全国1位鳩の血統書にも同系としてその名が綴られている。

歴代会長賞全国1位受賞鳩及び受賞者一覧

年度	受賞鳩	羽色	性別	受賞者	合計入賞率
令和7年 2025年	24LK03587 “雅ポルシェ・マカンボーイ”	PB	♂	柳田雅幸鳩舎 (千葉東・北総連合会)	0.00561
令和6年 2024年	22LC05247 “セントトーマス・フレンドシップ”	BC	♀	ピグマリオンロフト (平成千葉・常総中央連合会)	0.00281
令和5年 2023年	22MB06901 “スペシャル・ブルースカイ・レディー”	BCW	♀	ミヤモトレーシング (茨城・茨城東連合会)	0.00414
令和4年 2022年	21HF03658 “エクセレントレディ号”	BC	♀	砂岡正美鳩舎 (東坂東・栃南連合会)	0.00479
令和3年 2021年	19XA13453 “Ryôga453”	BC	♂	住谷勝三鳩舎 (ニュー近畿・豊中連合会)	0.00518
令和2年 2020年	―― コロナ禍のため授賞なし ――				
令和元年 2019年	18KA10144 “令和ストロング号”	BC	♂	船川勝信鳩舎 (埼玉・埼玉連合会)	0.00460
平成30年 2018年	17LB04520 “キンバリー”	B	♀	日暮義一鳩舎 (千葉・房総連合会)	0.00321
平成29年 2017年	16HS00121 “石狩マスト号”	B	♀	原田　弘鳩舎 (つくばね・常陸石岡連合会)	0.00180
平成28年 2016年	14MK04520 “パーフェクトナショナル”	BC	♀	原　正次鳩舎 (東京多摩・東京湖南連合会)	0.00343
平成27年 2015年	14HF04926	B	♂	足澤秀昭鳩舎 (東坂東・宇都宮連合会)	0.00209
平成26年 2014年	13HF10148	B	♀	釜井盛司鳩舎 (東坂東・宇都宮連合会)	0.00189
平成25年 2013年	12LB01045 “アイアンレディ”	B	♀	日暮義一鳩舎 (千葉・房総連合会)	得点2

＊14年度より完全入賞率制を導入

令和8年度 会長賞全国1位 小川安都志鳩舎（千葉

2年連続千葉東連盟から誕生！

Rgと地区Nの春の2レースを対象に競われる「会長賞」。までに57羽が申請され、その頂点は2年連続スピードレー「25LK00887」が選出された。同鳩舎はこれまで日本AP賞射止めた格好である。そして全国1位鳩は、会長賞の頂点を源鳩の“ランボー”でみればインブリードで構成。〝最新〟も



作翔者・小川安都志鳩舎（千葉若潮）のプロフィール

■鳩歴／27年　■レース歴19年（再開10年）
■鳩舎規模／種鳩39坪250羽・選手鳩30坪300羽
■主力系統／ホーイマンス系、ロードホフ系、ファンダイク系、“CHポポ”直系
■代表翔歴／スーパーエクセレントピジョン2羽、日本AP賞1羽、日本優秀鳩舎賞全国2位2回他、全日本ゼネラルCH賞、東日本CH、GP各総合優勝

最高ランク同士の配合

また全国1位の母方祖父にあたる〝カイチョウブリクセン〟は、その名の通り「会長賞」の受賞鳩であり、その入賞率は全国3位相当――と父方、母方ともに国内外の一流APの遺伝子が幾重にも受け継がれており、まさにその結晶ともいえる血統構成だ。

小川鳩舎では「自鳩舎のCH×異血」を基本とした配合を採用してきた。しかし前述の「スーパーエクセレントピジョン」をはじめ、実績鳩が充実してきたことから、25年の作出より「自鳩舎のCH同士」を軸とする配合へと舵を切った。その中で「ホーイマンス系」と「ロードホフ系」の組み合わせは、自鳩舎において距離を問わず活躍鳩を輩出していたため、意図的にこのパターンを増やしたという。

全国1位はまさにそれにあたり、しかも両親とも小川鳩舎最高ランクの種鳩。曰く、いいトリ同士の交配だった。なおこの2系統の源流を辿れば、〝カニバール〟の父である〝ランボー〟に行きつく。つまりは11重に及ぶ近親。しかしその一方で、異種同系交配にもあたり、この配合法は〝血の甦り〟を促すテクニックの1つとして有名だ。さらに〝ブリクセム〟とその父方祖父〝ヴィットバイク（1P優勝3回）〟の血でも同様の法則が取り入れられている。

全国1位鳩自身、父、母双方の特徴を継承しているようで、小柄で手持ちがよく、つまったタイプ。肉の張りも申し分なく、その翔歴と血統が示す通り、スピードバードそのものだ。

自鳩舎初にして、待望の日本一！

千葉東連盟では再審後、すぐに賞レースの進捗が発信される。会長賞も例外でなく、発表された入賞率が「0・00620」。前年のトップ・柳田雅幸鳩舎（北総）に近い数値であった。ゆえに当然全国1位を意識することになるが…、これから地区Nの開催が本格化するタイミングもあって、他団体のレースが気になってしまい、ハンドラー2人から檄が飛ぶほど管理に集中できなかったようだ。

そして地区Nのトリを飾った北海道北部連盟の成績を同連盟の掲示板でチェックし、安堵――。そしてこの度の正式発表で喜びも一入であろう。

小川鳩舎は、協会最高賞の1つ「日本優秀鳩舎賞」において、これまで2度の全国2位を経験しており、〝シルバーコレクター〟の印象が強い。それだけに、自身初の全国1位とあって、その達成感からモチベーションが極まること間違いなし。加えて国内外の銘血で構成され、かつ性能決定済みのブリーダー群、ワンチームによる緻密な飼育管理とレース調整――と、そのポテンシャルから今回の「日本一」はあくまで1つ目であり、通過点！「日本最優秀鳩舎賞」か「日本AP賞全国1位」獲得という〝覇道〟への狼煙となるかもしれない。

【各連盟の受賞鳩の発表は22頁～】